



「書評」
(株)農林中金総合研究所企画
古江晋也 著

『地域金融機関のCSR戦略』

本書は、農林中金総合研究所の企画によって、主事研究員の古江晋也氏が長年にわたって地方各地の金融機関を訪問し、それぞれの金融機関のCSR（社会的貢献）活動の実態を調査、分析した結果を踏まえてまとめられたものである。

もともと企業のCSRが問題になったのはすでに50年以上前のことである。九州水俣市における窒素工場からの排水による被害者が続出していることが公式に認められ、また足尾銅山における鉍毒事件等長年埋もれていた公害問題が取り上げられ、企業の社会的責任が問われることになった。しかしこの段階では一部の当該企業の問題として取り上げられるに過ぎなかった。したがって、企業も政府も対症療法的な対応をとるに過ぎず、企業の収益に左右される側面が強かった。しかし、次第に企業の地域社会に対する行動は、一時的なものから本来の事業に地域貢献活動が組み込まれる方向に認識が変質してきた。地域金融機関においても、地域社会、住民が何を求めているかを真剣に考え、その対応としてCSRを考え実行するところが急速に増加し、各

地に見られるようになってきた。

本書は、著者が長年にわたって全国各地を足で訪ねて、その実態を捉え考察した集大成である。本書の構成は、第1章が総論であってCSRが日本、アメリカで如何に議論され認識されるようになってきたかが整理されている。第2章以下第6章までは、地域金融機関によって、実際にCSRとして取り上げられている活動、すなわち環境保全問題、多重債務問題、バリアフリー問題、障がい者雇用問題、CSRコミュニケーション問題であって、それぞれの問題に立ち向かって活動している金融機関を一つだけ取り上げるのではなく複数機関を分析し、検討しているところに説得力のあるものになっている。さらに、第7章では協同組織金融機関が中央機関を軸として連携することによってその効果を大きくしているといった協同組織金融機関のあるべき姿が紹介されている。最後に、本年の東日本大震災における地域金融機関の対応、課題が取り扱われている。

地域金融機関が今後進むべき方向として多くの地域金融機関にとって課題検討の教科書、ガイドブックとして有意義な文献であると言えることができる。

——(株)新評論 2011年11月

定価2,500円+税 257頁——

(日本大学名誉教授

安田原三・やすだ げんぞう)